

# 虫の声

☆いよいよ20世紀もあとわずか。第11号は20世紀最後の発刊となります。21世紀への宿題の多い中で、地球環境をどう守るかは最大の問題といっても過言ではありません。人間と動物との共存もそのひとつ。今号では宮崎学氏のご好意で問題提起の『ギャラリー』となりました。ぜひ、ご感想をお寄せください。☆次回の『標本棚』のテーマは「俳句」です。お題は《虫》。皆様の投稿をお待ちしております。

# APEX CLUB

'00/12 第11号

アペックス産業株式会社

『APEX CLUB』  
 発行 2000年12月1日 (通算第11号)  
 発行所 アペックス産業株式会社編集委員会  
 〒105-0014 東京都港区芝2-23-4  
 電話 03-3455-6474 FAX 03-3455-6558  
 発行人 元木 貢 (編集委員) 和田芳武 白坂昭子  
 岩佐賢一 山口カ広  
 (事務局) 西海 彩  
 制作協力 株式会社オービット

## ギャラリー



夜の新宿。人影まばらな盛り場の路上をドブネズミたちが徘徊する。

作・宮崎 学(写真家)

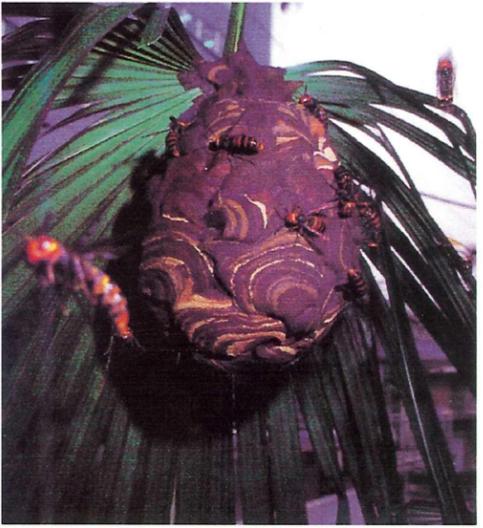
### プロフィール

1948年、長野県上伊那郡生まれ。精密機械メーカーに勤務後、1972年に写真家として独立。1978年「第1回絵本にっぽん大賞」受賞。1982年「日本写真協会新人賞」受賞。1990年「土門拳賞」受賞。1995年「FRIDAY」連載「アニマル黙示録」と写真集「死」で「講談社出版文化賞」「日本写真協会年度賞」受賞。

10年も前のこと。山の中の鳥の巣に奇妙なモノが混じっていた。行楽客がパーキングエリアのゴミ箱に捨てた使用済み紙おむつ。鳥たちはそれを再利用して巣をつくっていた。人間の出すゴミと野生動物たちの撮影行はやがて、人間社会と野生動物の狭間を見つめる旅となっていく。アニマル黙示録。この写真集はその最初の報告である。(1995年発行「アニマル黙示録」より抜粋)

渋谷ハチ公前広場の植え込みに暮らすドブネズミ。通行人が捨てたゴミが彼等の夕食。人々は彼等の存在にほとんど気付かない。

## アニマル黙示録



都心のスズメバチの巣。生ゴミなど豊富な食物や温暖化で、都市に生きる昆虫が増加。それを餌に肉食性のスズメバチも増えている。



### むし籠

#### 二人のレディ

##### ★第一話

M氏が所属する協会の委員会が、友人S氏所有の妙高高原のロッジで開催され、Y嬢とM嬢はS氏から世話役を依頼された。

委員会も無事終了。会議後のパーベキューも盛り上がり、食後、全員で露天風呂に繰り出すこととなった。もちろん、男女別々だったが、あまりの静けさに心細くなったレディの二人は、なんと男性群の中に紛れ込んで来た。ちなみに入口は別でも中ではつながっていた。

##### ★第二話

帰京後、お礼の食事に招かれた二人。この日のY嬢は、ドレス、コート、マフラーを茶系で統一。道筋、公衆トイレに立ち寄ったY嬢。水を流した時、首に巻いたマフラーが便器に吸い込まれてしまった。引つ張り出そうと格闘し、やっとの思いで引き上げた時には、便器はすっきりきれいになっていた。マフラーは……。茶系でよかった!

#### 我輩の最大の「敵」

我輩の名前は「コードM・T」。本当の姿を隠すため、変身して害虫駆除の仕事をしている。そう、あの日のことだ。天井裏の

スズメバチ駆除を依頼され、我輩は新人のTを連れて出陣した。一般の作業員は「防護服」なるものを着用するが、我輩は自らの安全を守るすべは心得ているので着用などしない。まず様子見のため天井板を外したところ、なんと外した真上に奴らの巣があり、奇襲攻撃にさらされた。「防護服」姿のTは脱走のこどく逃走。我輩は両手で外した天井板を支えたまま、なすすべもなく耐え忍んだ。我輩は今もあの姿で過ごしているが、一つ変わったことは「防護服」を着用するようになったことだ。

#### 当たらね損の原価償却

Y氏は年齢を考え、あと十年乗ったら運転は止めようかと決心、最後のつもりで新車を購入した。ところが、一年ほどしたある日、駐車場で大型クルーザーに激突され、あわれ愛車は大破してしまった。しかたなく同型の新車を再購入することにしたが、加害者からの賠償額は半額程度。わずか一年で百万円近い追加出費を余儀なくされた。加害者の方にはといえば、自分の車の修理、Y氏への賠償、駐車場のブロック塀の修理など、全ての費用を保険で支払い、自弁は謝罪挨拶時の菓子折り代のみ様子。



Y氏も「新車も一年乗れば査定評価は半額」ということは知っていたが、それにしても理不尽。Y氏は今だに納得出来ないでいる。

### 虫めがね

☆一九九九年のパソコンの国内出荷台数は、前年度三二%増の九百九十四万台で、初めてカラーテレビの出荷台数を上回ったという。

また、インターネットの日本の利用者は二千七百万人に達し、世帯普及率は一九%を超えた。郵政省では二〇〇五年にはネット人口が七千六百万人に達すると予想している。これにつれてコンピュータを使った犯罪も急増している。今年の五月に起こった「I LOVE YOU」ウイルスもその一つだ。このウイルスは、うっかりファイルを開けると、そのパソコンのプログラムやファイルが破壊されるだけでなく、そこに書かれているすべてのアドレスに、このウイルス入りの文書を勝手に複製送信して被害を拡大して行くというものである。被害は全世界で百億ドルとも言われている。

過去の大量兵器による殺戮であったが、第三次大戦が起るとすれば、コンピュータによる情報破壊、ひいては経済戦争になりそうだ。ウイルスではないが、先般、筆者のコンピュータが落雷により破壊され、すべてのソフトとファイルが使用出来なくなった。コンピュータのもろさ、情報社会の落とし穴を覗き見た気がした。

## おじゃま虫

### アリ



撮影/其田益成氏

【プロフィール】 社会生活を営む昆虫。女王・雄・羽のない働きアリで構成される。家屋に侵入し、不快感を与えるばかりでなく、食品害虫となったり、人を刺咬する種もあるが、益虫の面もある。シロアリと混同されることもあるが、アリは胸部と腹部の間が細く、羽アリは前翅が後翅より大きい。羽アリの出現は夏、シロアリは梅雨前が普通。

【種類】 日本には二百種類以上いると言われているが、居住環境で問題になるのは三十種類程度。ビルなどに侵入する代表種のイエヒメアリは、わずかな隙間に侵入、営巣し、食品

類に集まる。暖房等で一年中発生する場合がある。一般住宅では、庭やベランダの植木鉢にトビイロケアリ等が巣を作り、家に入ってくる。灯火に飛来する羽アリの代表はキイロシリアゲアリで、夏場、食卓に落下したり、体にまとわりついて不快。人を刺す代表のオオハリアリも地中等に営巣。建物に侵入し、尾端の毒針で人を刺す。

【駆除】 アリにスプレーをかけて殺すのは切りがない。粉剤や食毒剤がかなり有効。食毒剤を出没する場所に配置しておくと、巣に運び込んで巣全体が死んでしまう。